

令和3年度

事業計画

- 1 介護老人福祉施設「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポータィ・もみじ台」
- 2 通所介護デイサービスC「緑愛園」・「青葉のまち」
- 3 短期入所生活介護ショートケア「緑愛園」・「青葉のまち」
- 4 訪問介護事業所「サポータィ・もみじ台」
- 5 居宅介護支援ケアサポート「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポータィ・もみじ台」
- 6 札幌市清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）
- 7 札幌市清田区第1・第2介護予防支援事業所（札幌市委託）
- 8 札幌シニア福祉機構（自主事業）



社会福祉法人

ほくろ福祉協会

【社会福祉法人ほくろう福祉協会 理念】

「私たちは、人の幸せを望みます。」

～We Wish a person Well (3W ビジョン)～

【私たちは、常に利用者の方にベクトルを向けて、福祉のプロフェッショナルとして高い倫理観と責任感を堅持し、新たな発想で新たな「幸せ」創りに貢献します。】

～ 目 次 ～

基本方針	・・・ P2～3
【事業方針】	
【事業目標】	
I 法人経営・施設運営	・・・ P4～8
① 総務管理部	
② 事業運営部	
③ 経営企画部	
④ 介護人材対策	
※ 公益事業『札幌シニア福祉機構』	
II 各施設事業計画値	・・・ P10～11
III 職員配置計画	・・・ P12
IV サービス方針	・・・ P13～30
【緑愛園】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【青葉のまち】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【サポーター・もみじ台】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【地域包括支援センター（札幌市委託）】	
① 清田区第1地域包括支援センター（清田区第1介護予防支援事業所）	
② 清田区第2地域包括支援センター（清田区第2介護予防支援事業所）	

令和3年度 事業計画

基本方針

【事業方針】

令和3年度は、第五次中期経営ビジョン3ヵ年計画（令和2～4年度）の2年目となります。重点課題に設定した①人材定着策と確保策の革新②緑愛園建替え準備計画③職務改革と労務管理の強化について実効性の高い取組みを進めていきます。

昨年度は、新型コロナウイルス一色の1年であり、全国の福祉施設で多数のクラスターが発生しました。当法人施設・事業所では、利用者1名の陽性だけで止めることができたため、さらなる感染対策を強化し、クラスター防止に努めます。

本年度は介護報酬の改定年です。施設・事業所の運営基準や加算算定要件の見直しも多数見受けられるため、改正基準の点検を強化すると共に、可能な限りの加算取得に努力致します。また、施設入居者・在宅利用者に魅力あるサービスをPRし、戦略的に利用者確保を進めます。利用者・家族・地域住民のサービス向上は、専門職の定着と比例しますので、良質な組織風土づくりに邁進します。

【事業目標】

I 法人経営

- ① 緑愛園の建替え（第六次中計）に伴う自己資金確保のため、資金収支差額の目標を達成します。また、建替えのための具体的な準備（専門委員会発足等）を開始します。
- ② 施設入居者・在宅利用者を戦略的に確保すべく、施設・事業所と法人本部の取組みを明確にして稼働率・利用率の安定及び待機者確保を図ります。
- ③ 新型コロナウイルスによる経営ダメージをコントロールできるよう、法人全体の体制を整備します。（応援体制・現地対策室設置・マニュアルの見直しなど）
- ④ 介護報酬改定及び運営基準の見直しに伴う対策を早期に着手し、事業運営の安定化に努めます。
- ⑤ 法人本部に配置した介護人材対策課長の機能を有効活用し、職員定着・人材確保を強化します。

II サービス

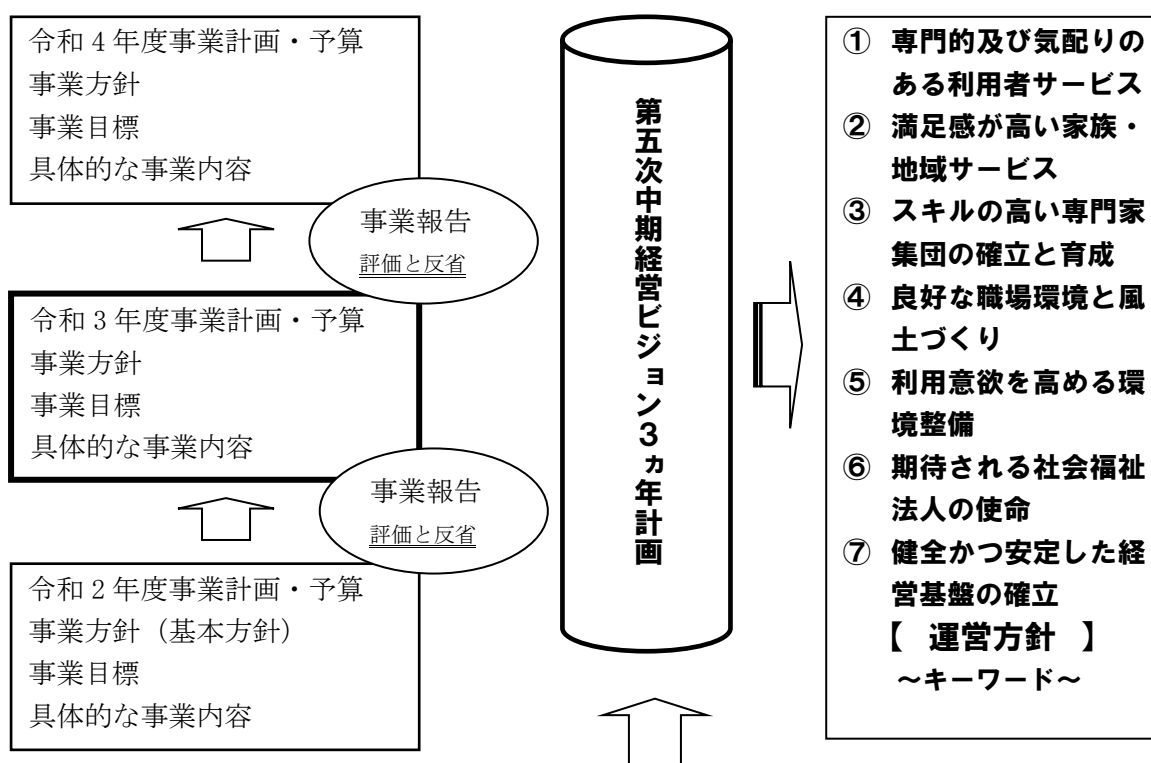
- ① 新型コロナウイルス発生防止のため、感染対策委員会の取組みを充実し、シミュレーションを実行します。
- ② 介護職員の動態調査を行い、職務・サービスの効率化を図ります。
- ③ ICT等の導入効果を検証し、業務省力化及びサービス提供体制を見直します。
- ④ 職員資質の違いによるサービス提供技術の差を是正するため、業務関連マニュアルの見直しと管理・育成体制を強化します。
- ⑤ 利用者サービス向上のために、介護職員の定着化策を各施設で立案し、実践します。

Ⅲ 職員労働環境

- ① 働き方改革関連法による均等・均衡待遇を整理し、手当・休暇等の不合理の有無について検証します。
- ② 定年延長及び新退職金制度等の運用を開始し、職員の将来設計を充実させます。
- ③ 各施設・事業所での職員定着対策を点検・修正し、離職率目標〔全職員 12%（うち介護職員 13%）〕の達成に努力します。
- ④ 新加算（介護職員等特定処遇改善加算）における支給基準（2：1：0.5）の見直しに伴い技能手当の金額を修正しつつ、賃金改善を継続します。
- ⑤ 勤務割作成及び勤怠管理システムを導入し、適正な超過勤務の管理に努めます。

【第五次中期経営計画と令和3年度事業計画（確認）】

【基本目標】 私たちは、利用者・家族そして地域に信頼の高い施設・事業所を目指します。



【基本理念】 ・ 【長期経営ビジョン】
「私たちは、人の幸せを望みます。」we wish a person well（3Wビジョン）

I 法人経営・施設運営

1. 総務管理部

(人材・人員確保)

- ① 介護人材対策課長と連携し、介護人材確保対策委員会を設置・運営し、有効な人材確保策・職員定着策を検討し実行します。
- ② 新卒採用者および中途採用者確保のため、介護人材対策課長と連携して求人活動を展開し、効果的な求人方法を模索します。
- ③ 介護主任(育成担当)の評価・検証を行い、継続配置の必要性を判断します。

(高年齢者雇用安定法対応)

- ① 職員が長く安心して就業できるようにするため、60歳からの5年間について、現在の継続雇用制度での雇用から正職員の定年延長へと変更し、それに伴う退職金制度の変更運用を開始します。
- ② 法改正に伴う「70歳までの就労確保努力義務」に対応するため、65歳定年後の雇用制度について制度設計を行い、2022年度より運用します。

(働き方改革関連法対応)

- ① 「同一労働・同一賃金」の考えに沿い、正職員と非正規職員との間の待遇差を検証し不合理な点について改善策を検討します。
- ② 「勤怠管理システム」を導入し、労働時間の客観的把握と適正な勤怠管理を行います。

(介護職員等特定処遇改善加算)

- ① 介護職員等特定処遇改善加算の基準変更に伴い、新基準による技能手当の支給を行い、各グループ別1人当たり改善比率を毎月検証します。

(職場労働環境など)

- ① 職員の健康管理として、定期健診再検査対象者の点検強化を行います。また新たな健診医療機関の確保を検討します。
- ② 職員の福利厚生として、職員に対する制度理解、休憩場所等の環境見直し、表彰制度の見直しを行います。
- ③ 労使連携として、経営協議会を通じた職員組合との経営情報共有化、職員定着化に向けた連携の強化を行います。

2. 事業運営部

- ① 稼働率及び利用率安定と待機者確保策について施設・事業所と法人本部の役割を検討し、効率的な戦略を図ります。
- ② 介護における業務改革の推進と更なる業務効率化の為に、介護職員の動態調査に取り組みます。
- ③ サービスの質向上ため、介護サービスマニュアルを整備し介護提供の標準化を図ります。
- ④ 業務管理体制マニュアル及び業務継続計画(BCP)を作成し、管理体制の強化を図ります。
- ⑤ ICT 導入後の活用効果及び給食委託方式の変更実態を検証し、介護職員の業務効率化を目指します。
- ⑥ 介護保険制度改正に伴う変更点を協議し、サービス体制の見直しと新たな加算体制の構築に努めます。
- ⑦ コロナ禍における札幌シニア福祉機構の研修事業開催方法を検討いたします。
- ⑧ 「緑愛園建替専門委員会」を設置し、建替え検討について具体的に着手します。

3. 経営企画部

- ① 新型コロナに対する具体的施策は、各施設・部門で具現化しているが、法人全体の事業推進に影響を与える課題については、速やかに対応・対策を協議して方針を確立し、経費支出などについても機動的に行っていく。
- ② 令和3年4月から実施される介護報酬の改定については、報酬単価以外にも制度改定・運営基準等の見直しがあり、改定内容に沿って適切に対応を行っていく。
- ③ 介護人材の確保と離職率低下及び職場の定着化は、喫緊の課題であり、各施設で計画した具体的取組に、法人本部も積極的に係わっていく。
- ④ 緑愛園の施設建替えについては、「緑愛園建替専門委員会（仮称）」で論議を進めるが、具体的に答申が出された場合は、速やかに実行に向け検討を行う。
- ⑤ 緑愛園の施設建替えについては、原則補助金がなく、自己資金に厚みを持たせる資金計画が必要となる。コロナ禍の状況により、計画外の介護報酬減収・経費支出増加等のマイナス要因も予測されるが、施設建替え資金確保に向けて、できる限り対応して行く。
- ⑥ 介護人材の不足は深刻な状況にあり、加えて人口減少が進む中で、労働生産人口が減っている。国のデジタル推進強化施策もあり、介護労働の軽減・補完について、ロボットの導入・ICTの活用（一部導入済）について調査を進め、さらに具体的導入を検討していく。
- ⑦ 第五次中計に策定した「アクションプラン」の着実な実行のため、令和3年度中間総括を計画通りに行っていく。

4. 介護人材対策

- ① 働きやすい職場環境の改善を図るため業務改善と風土づくりを行い職員定着につなげます。
- ② 介護未経験者の採用を行い、法人内で介護職員の育成を強化します。
- ③ 介護職員の中途採用者採用にむけ、潜在的有資格者復職支援体制を強化します。

重点項目	中項目	細目
職員定着	働きやすい職場風土づくりの強化	各施設策定の職員定着計画進捗状況を実態把握及び助言と計画立案
		人材定着対策内部チームの立ち上げにおける実態調査を実施し、業務改善計画の助言及び計画立案
		5S活動を奨励し業務効率を強化
		退職時面談の実施及び課題検証
人材確保	未経験の中途採用者の確保強化	未経験者の正職員採用の規定を確立
		介護実務者研修と初任者研修実施機関との関係強化
		求職者支援訓練機関の職場実習の受入強化
	介護福祉士養成等の繋がり強化	介護福祉士養成校の実習生受入の再開
		介護福祉士養成校の教員へ中途採用者募集情報を発信
		介護福祉士養成校の介護実習報告会へ卒業生派遣
		潜在介護スタッフ復職セミナーの実施
		職員退職の補充期間が短縮できるよう、定期的な経験者募集取り組み
	高校卒業生の採用	高校訪問の実施
		高校生のインターンシップ受入
		介護福祉士養成校への奨学制度
	広報媒体の強化	ホームページのリニューアル
		採用コンサルタントの導入

令和3年度 人材対策計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
職員定着	働きやすい風土づくりの実施	各施設の職員定着計画の進捗状況の実態把握		点検		点検		点検 上期評価		点検		点検	最終評価		
			行動規範、ハラスメントの点検状況の進捗状況の点検	提案		点検			点検				評価		
		介護職員の実態調査の実施	提案	実施	実施	実施	実施	評価							
			他施設見学	実施				実施							
		未経験者採用枠の運用の確立	検討	検討						実施					
			介護実務者研修と初任者研修実施機関訪問		訪問				訪問				訪問		
		未経験者採用枠の運用の確立	潜在介護スタッフ復職セミナーの実施		計画		実施		計画		実施				
				求職者支援訓練機関実習受入れ		検討	受入	実施							
		人材確保	介護福祉士養成等の繋がり強化	介護福祉士養成校の実習生受入の再開			受入			受入				受入	
				介護福祉士養成校の介護実習報告会へ卒業生派遣			派遣			派遣					
高校卒業生の採用	高校訪問の実施		訪問		訪問							訪問			
	高校生のインターンシップ受入				提案		受入								
広報媒体の強化	ホームページのリニューアル		介護福祉士養成校への進学の提案	訪問		訪問									
			リクルートページ作成	検討	検討	実施						検討	検討	実施	

【公益事業・札幌シニア福祉機構】

	セグメント	概 略	令和3年度の計画値・取組み
研修研究事業	①	介護職員初任者研修 介護職員初任者を養成 ～北海道指定養成機関～	8、9月（札幌学院大学・藤女子） 計画40名の修了者
	②	認知症介護基礎研修 認知症介護（基礎）職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	7、9、10月開催（年3回） 計画60名の修了者
	③	認知症対応型サービス事業 管理者研修 認知症対応型サービス事業を管理・ 運営する者を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	6、10月開催（年2回） 計画40名の修了者
地域連携事業	①	介護技術体験会 未経験や介護資格保有者を対象に介 護体験会とガイダンスを開催	各種大学・専門学校の在学生・ 卒業生・一般受講者向けに開催

※ その他、公益事業として可能性のある事業の検討を随時行う。

※ 新型コロナウイルスの影響により、「現任専門職研修」「認知症実践者研修」「認知症リーダー研修」は開催を見合わせています。

Ⅱ 各施設事業計画値

【緑愛園】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和2年度見込
1	介護老人福祉施設	82+3 (85)	97.2%	1日 82.6名 平均介護度 3.87	80.5名
2	短期入所生活介護	12-3 (9)	92.2%	1日 8.3名 平均介護度 2.84	8.4名
入所計		94	96.7%	1日 90.9名	88.9名
3	通所介護 (一般)	45		1日 25.5名	21.6名
	(総合)			1月 39.0名	32.6名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 215件 月請求 55件	268件
	支援計			計 270件	

【青葉のまち】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和2年度見込
1	介護老人福祉施設	70	98.7%	1日 69.1名 平均介護度 3.91	68.4名
2	短期入所生活介護	10	68.5%	1日 6.85名 平均介護度 2.55	4.4名
入所計		80	94.9%	1日 75.95名	72.8名
3	通所介護 (一般)	49		1日 23.0名	21.4名
	〃 (認知)			1日 3.0名	2.7名
	〃 (総合)			1月 26.0名	26.7名
4	居宅介護支援 (介護) (予防)			月請求 170件 月請求 60件	216件
	支援計			計 230件	

【サポータィ・もみじ台】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和2年度見込
1	介護老人福祉施設	80	97.4%	1日 77.9名 平均介護度 3.91	75.7名
2	訪問介護	280		月 1,166時間	1,260時間
3	居宅介護支援 (介護) (予防)			月請求 129件 月請求 36件	157件
	支援計			計 165件	

【地域包括】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和2年度見込
1	第1介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合(再)	月請求 80件 月請求 140件 月請求 65件 月請求 240件 月請求 70件	585件
	予防計			月請求 595件	
2	第2介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合(再)	月請求 125件 月請求 175件 月請求 145件 月請求 275件 月請求 85件	797件
	予防計			月請求 805件	

※令和2年度見込みについては、12月末データを基に作成。

Ⅲ 職員配置計画

職種	緑 愛 園			第1包 括	第2包 括	青葉のまち			ホーティ・もみじ台		
	施設	通所	居宅			施設	通所	居宅	施設	訪問	居宅
施設長	1					1			1		
相談支援課長	1					1					
生活支援課長	1					1			1		
センター長(課長)				1	1						
医務主任	1								1		
介護主任	3	1				3	1		3	1	
相談支援主任						1			1		
居宅支援主任									1		
包括支援主任				1	1						
看護師	3	+2				4	+2		3		
機能訓練員	1					1			1		
保健師等				2	2						
主任ケアマネ				3(2)	3(1)						
社会福祉士等	2	2		3	4(1)	1	2		1		
ケアマネ	1	5		3	4	1	5		1	3+1	
サ提供責任者									5		
※介護職員+日常生活サポーター	20 +20	6+2				20 +22	5+4		28 +25	19	
管理栄養士	1					1			1		
栄養士									+1		
事務職員	1+1	+1		+1	+1	1+1	+1		1+1		
設備員	+1					1			+1		
カフェ・喫茶						+2			+1		
守衛									+2		
計	36+22	9+4	6+1	11+1	13+1	37+25	8+6	5+1	43+31	6+19	3+1
合計	51+27			24+2		49+32			52+51		

(+は臨時B・C職員・嘱託職員・パート職員) ※介護職員・日常生活サポーターは、勤務時間数により人数変更が伴います。

職種	法人本部	備考
事務局長	1	経営企画部長 兼務
事業運営部長	1	
経理総務課長	1	
介護人材対策担当課長	1	
スタッフ	1+1	シニア事業+事業運営+総務経理
計	5+1	

管理職	14
正職員	167
嘱託	0
臨時・パート(夜勤専門含)	113
※新年度採用者(介護のみ)	5
合計	299

IV サービス方針

● 緑愛園 ●

【全体】

現在の入居者・利用者のほか、利用待機者の生活状況や背景にある社会情勢の変化を理解し、柔軟なサービス提供とその利用者にとって最善の支援を追求します。また、それぞれの職種が専門性を発揮できる機会を創出するため、現在の労働環境を見つめ直し、介護ロボットやICTを活用した効率性と効果性を探求します。

さらに、当施設の建替えを視野に入れたサービス環境の検討について全スタッフで計画的に実施するため、業務内容の数値化及び活字化から分析します。

（相談支援課）

- ① 令和3年度の報酬改定を熟知し、法令遵守を意識した効率的業務スタイルを確立します。
- ② 福祉専門職以外の知識・スキルを学び、利用者獲得と稼働の安定を目指します。
- ③ コロナ禍における地域支援実践の見直しと再構築を模索します。
- ④ 適時・適切なコロナ禍における支援を行うための支援方法を検討及び実践します。

（生活支援課）

- ① コロナ禍において利用者と家族が安心して繋がれる方法を提案します。
- ② 各委員会の機能を再編し、介護現場の実践内容に対する連動性を高めます。
- ③ ICT及び介護ロボット・介護リフトの活用による業務効率を可視化し、介護マニュアルの更新を行います。
- ④ 事業所の目指すべき方向を共通言語化し、支援体制を整えます。

● 青葉のまち ●

【全体】

施設全体の構造改革に着手し、資金収支が改善できるよう全事業の見直しを図ります。介護報酬の改定に伴い、算定可能な新たな加算の体制の整備を迅速に行います。施設部門では、ICT化を促進し記録業務の効率化を図るとともに働きやすい職場づくりを実現し人材定着に繋がります。通所部門では、感染防止対策を徹底し安定した利用率となるよう努めます。居宅部門では、内部の業務点検及び研修を強化し法令遵守に努めます。

（相談支援課）

- ① 施設入居者に対する家族からの支援、自費サービスの利用拡充を進めます。
- ② 青葉のまちの通常規模型・認知症対応型それぞれのPRポイントを再評価し、感染症対策と併せた広報活動を展開します。
- ③ 居宅ケアマネジメント業務の効率化と点検強化に向けた改善を図ります。
- ④ 入居申込者の確保に向けた対策を検討し実施します。

（生活支援課）

- ① 居住空間の課題を可視化し、重度化に視点を置いた環境改善を図ります。
- ② 記録業務の効率化に向け現状分析を実施し、ICT機器の導入を図ります。
- ③ 緊急対応時に迅速な行動がとれる様、専門職としての知識向上を図ります。
- ④ 夜勤5名体制の業務内容と時間運用を評価し、職員定着に繋がります。

● サポートィ・もみじ台 ●

【全体】

令和3年度は介護報酬の改定年です。各事業の運営基準や加算算定要件などの点検強化と、新型コロナウイルス発生防止に向け、感染対策を充実させシミュレーション（訓練）を行います。また、昨年度行ってきた食事提供方法の変更や ICT 機器等の導入効果を検証し業務効率化を進めていきます。また、専門職としてサービス提供技術の差を減少するための取り組みを強化します。

（相談支援課）

- ① SNS の積極的な活用と外部機関への情報発信を継続し待機者確保に努めます。
- ② 地域交流スペースの機能発揮に向けた検討を行います。
- ③ 令和3年度に改正された介護報酬の理解を深め、法令遵守に努めます。
- ④ 居宅部門において、モバイル PC を活用し業務効率化を図ります。

（生活支援課）

- ① 新型コロナウイルス発生防止に向け訓練を行います。
- ② ICT 機器等の導入効果を検証し、業務効率化を促進します。
- ③ 夜勤5名体制の評価を行い、働きやすい環境作りに努めます。
- ④ 指導・育成体制を見直し、職員の資質によるサービス提供技術の差を是正していきます。

●清田区第1・2地域包括支援センター●

- ① 高齢者の早期発見が支援に繋がるよう地域全体のサポートや地域包括支援センターの対応力の向上を図り、総合相談窓口機能を充実します。
- ② 清田区内の介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメント支援力の向上を図るため、区内の主任介護支援専門員と協同し介護支援専門員のネットワークづくりを推進します。
- ③ 地域づくり・資源開発にむけ、個別地域ケア会議と各層地域ケア会議、生活支援体制整備事業が効果的に連動されるよう他運営主体とともに協議し、推進を図ります。
- ④ サービス利用のみで重度化防止を図るのではなく、セルフケアを基本とし、地域全体が主体的に介護予防に取り組めるよう、介護予防センターや他機関との連携を推進します。
- ⑤ 職員定着とサービスの質の向上のため業務内容を点検し、業務の効率化、削減、分散を検討します。

V 各事業部門計画

【 緑 愛 園 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1.質の高いケア	①ICT 利活用による安全性及びケアの効率性の検証と強化	ICT 及び介護ロボットの活用前後の業務効率を可視化し検証する	施設部門 通所部門
	②実践的ロボット活用の検討	介護機器を活用した支援と人による介護の併用に関する実践事例を蓄積する	施設部門
	③倫理を重視した介護実践と点検強化	各委員会と介護実践の連動を強化し、コンプライアンスを意識した支援検証を行う	施設全体
2.サービスの充実	①サービスコンセプトの検証及び再構築	職員が共通言語で働くために具体的な行動計画を立案できる仕組みを構築する	施設部門 通所部門
	②生活と余暇の相関関係を重視した実践	「科学的介護」に重点を置き、利用者のモチベーション維持と自立に関する支援情報を整理する	通所部門
	③新たな顧客へのアプローチ方法の検討 【見直し】	ボランティア等の施設内立入が困難なため SNS やホームページを通じ、リードジェネレーション領域へのアプローチを実施する	施設部門 通所部門
3.情報発信とリスク管理	①利用者家族が自由に情報を取得できる情報発信システムの検討	利用者家族及び職員との連絡手段について、効率的な方法と発信内容を検討する	施設部門 通所部門
	②利用者家族等が施設の運営状況を確認できる情報取得ツールの検討と作成	令和2年度に活用し始めた Google フォトの利用を通所部門でも検討する	通所部門
	③スタッフによる利用者生活情報の発信力強化	面会自粛の中、家族が安心できる日常生活の情報と発信方法を検討する	施設部門 通所部門

[社会資源の発掘及び地域支援強化]

重点項目	計画内容		部門
1.地域課題の分析と地域支援	①個別支援から地域課題を把握できる地域アセスメントの強化	コロナ禍における個別ニーズの変化を整理し、同時に地域課題の変容を把握する	相談支援課
	②新たな社会資源の検討と提案	社会情勢の変化による地域情勢の情報収集と新たなネットワーク構築の形を模索する	全部門
	③資源開発のためのネットワーク構築	コロナ禍における地域の変化を確認し、ネットワークのあり方について検討する	全部門
2.地域力の活用	①地域にいる学生たちの発想力を地域力に組み込める手法の検討と実施	教育現場とのネットワークづくりを検討し、福祉教育の課題把握を行う	全部門
	②福祉教育の体制強化	コロナ禍における福祉教育システムを検討するため、情報発信を強化する	全部門
	③就労意欲のある高齢者や若い世代の活躍の場を提供	地域の労働資源に着目し、就労機会の提案を検討する	全部門
3.他機関連携	①他業種の知識を活かした地域診断・分析・PR 方法の獲得と活用	福祉業界の研修に限らず、WEB 研修に参加しビジネススキルの獲得を行う	相談支援課
	②他職種におけるビジネススキルの獲得と実践	地域に点在する事業所の情報発信と当事業所の情報発信の違いを整理する	相談支援課
	③つなぎ目のない支援展開のための内部連携強化	「連携」の必要十分条件を再確認し、当事業所の連携課題を整理する	相談支援課

[サービス環境]

重点項目	計画内容		
1.スキル向上	①利用者/介護者にとって 安楽な介護スキルの習得	コロナ禍における密着を低減した介護スキルの検討と感染対策の実践的訓練を行う	施設部門 通所部門
	②コンプライアンスを重視 した実践の再確認と修正	委員会の役割を再構築し、各サービスにおけるアドバイザー的立ち位置を確立する	全部門
	③自発的学習機会の設定 と学びの場の確保	WEB 研修の積極的な利用を通じて、自発的な学習機会を創出する	全部門
2.介護業務の改善	①業務課題の分析	施設内におけるムリとムダに着目し、効率的な業務手法を検証する	全部門
	②介護業務内容を検証し、 実践に適した提案と改善	①におけるムリとムダを整理し、業務改善案をスタッフから収集する	全部門
	③効率的な業務遂行のあり方を検討	新たなICT 機器等の活用について分析し、効率的な業務遂行マニュアルを作成する	施設部門 通所部門
3.建替え後の環境検討	①ICT/介護ロボットなどの物理的 環境に関する情報の取得と今後の検討	導入した介護機器等の活用事例を蓄積し、課題抽出と解決手法をマニュアル化する	施設部門 通所部門
	②ICT/介護ロボット/各種機器の活用アイデア	建替え検討部会を設置し、サービス提供やICT/介護ロボット活用の視点で検討する	施設部門 通所部門
	③ICT 等の利活用と人員配置の検討	ICT/介護ロボット活用における適正人員と人員配置を検討する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1.介護職員の定着化	①離職理由の把握と分析	WEB アンケートによる定着理由の確認と業務遂行状況に関する情報を収集する	全部門
	②スタッフのモチベーションとコミュニケーション機会の検討	Google ドライブを活用した社内報の発行を検討する	全部門
	③非常勤職員の就労環境における意見・要望の聞き取り	WEB アンケートにより就労環境における意見等を確認し話し合える仕組みを構築する	施設部門
	④職員定着を目指した風土づくり	風土調査を年 2 回実施し、課題の抽出と風土改善に向けた介入手法を確立する	全部門
2.利用者の拡大	①効果的情報発信手法の検討と実践	コロナ禍に適した情報発信手法の検討を行い実践する	全部門
	②緑愛園の事業スケールメリットを活かしたサポート体制の構築	定期的に外部居宅サービス事業所へ向けた情報発信を全事業一元的に実施する	全部門
	③効果のある利用者獲得方法の検討と実施(コロナ禍における変更)	複数の PR 媒体を作成し、対象者に合わせた効果的な PR を計画的に実践する	全部門

【 青葉のまち 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 認知症ケアの充実	①認知症介護実践研修 修了者による全体職員への理解促進	ユニット会議を活用し、施設内での伝達研修を実施する	施設部門 通所部門
	②認知症対応型通所介護の個別サービスの強化	24 時間シートを活用した個別支援サービスの対象者を拡大する	通所部門
	③継続的キャプション評価と環境改善	キャプション評価による定点観察と環境改善を年 2 回実施する	施設部門 通所部門
2. 専門的ケアの充実	①ユニット実習施設辞退に伴う独自ユニットケアの促進	効率的な施設運用を図るため、福祉用具の活用とユニット間の協力体制を確立する	施設部門
	②事例蓄積とデスクンファレンスの強化	看取りケア時における事例蓄積と活用を実施する	施設部門
	③ICT によるサービス記録の効率化	タブレットを活用し、バイタル等記録の ICT 化を図る	全部門
3. 専門職意識向上	①介護チームにおける情報共有の連携強化	引継ぎ時の情報共有の方法について、多職種評価を行い、連携強化を図る	施設部門
	②OJT 機能の推進体制の強化	定点観察から課題の把握を行い、改善策を講じる	施設部門 通所部門
	③施設全体による実習指導体制の改善強化	技術・知識面を含めた、実習生への指導体制を構築する	施設部門 通所部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1.地域活動の支援	①地域公益的取組の評価と再構築	雑学塾、脳健倶楽部の内容・頻度を評価し、新たなカリキュラムを検討する	全部門
	②近隣町内会に対する地域ニーズの把握調査【見直し】	地域福祉ニーズの調査方法について、近隣町内会と検討する	全部門
	③近隣町内会に対する新しい地域生活支援の提案【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
2.地域の福祉教育支援	①地域の子ども向け企画の継続的实施【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
	②地域住民向けの認知症啓発活動の実施【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
	③利用者と地域住民との交流機会の拡大【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
3.多様な支援主体の検討	①ボランティア確保に向けた取り組み	中断しているボランティア募集と受入を段階的に再開する	全部門
	②家族による入居者生活支援の拡大	家族に依頼する入居者支援内容を検討し、受入に向けた準備をする	施設部門
	③介護保険外サービスの外注促進	民間業者及び有償ボランティア等へ依頼可能な入居者支援を検討し、家族に提案する	施設部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1.リスクマネジメント強化	①福祉用具、介護機器の活用による介護負担の軽減促進	福祉用具・介護機器を導入し介護職員の腰痛対策を強化する	施設部門
	②介護職員による緊急時対応の能力向上	介護職員に対する、緊急時対応能力向上研修を実施する	施設部門 通所部門
	③介護ルーティン業務の見直し	定点観察を継続しルーティン業務の見直しを行う	施設部門 通所部門
2.待機者対策と支援	①関係機関への継続的・計画的訪問	関係機関へのPRを感染予防策に対応した方法で行い、機関・エリア別効果を検証する	施設部門
	②施設見学・相談受理対応における水準の統一化	来館に限らない柔軟な方法で入居相談や施設見学が行える取組みを検討する	施設部門
	③待機者の情報収集頻度の見直しと、実態調査における優先順位の精査	入居相談・申込者への対応を迅速に行う体制を作り、空床期間の削減を図る	施設部門
3.居住空間整備	①ユニット内清掃業務の機械化と委託契約内容の検討	日常生活サポーターの運用評価を行い、機械化への移行内容を検討する	施設部門
	②自立支援型デイの評価と環境見直し	自立支援型デイの仕掛け・プログラムを評価・更新する仕組みを構築する。	通所部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1.介護職員の定着強化	①退職理由の分析と統計化	退職理由の実態把握方法を検討し分析する。	施設部門 通所部門
	②職員休息空間の場所及び環境の見直し 【見直し】	感染対策を意識した休息空間について要望を確認し環境改善に努める	全部門
	③日常生活サポーターの増員による業務内容検討	日常生活サポーターの運用評価を実施し、業務内容を精査する。	施設部門
	④ユニット運営方法の見直しによる職員孤立感の軽減	夜勤5名体制の評価を実施し、今後の運営方法を精査する	施設部門
	⑤介護職員にとって魅力ある職場を再確認し、職員が他者に誇れる施設作りの実施	職場内評価と魅力ある職場環境の情報発信方法を検討する	施設部門 通所部門
	⑥介護職員の業務負担の分散化を目的とした、超過勤務の労務管理向上	定点観察の評価から、直接及び間接介護業務の割合を検証し分散化を検討する	施設部門 通所部門
	⑦介護業務の効率化と削減	ICT化を図り記録効率化と業務削減を図る	施設部門 通所部門
2.利用者の拡大	①電子媒体を活用した事業所PR訪問の計画的実施	感染症予防策を強化し、それを併せた事業所PRを実施する	通所部門
	②地域ネットワーキング活動への積極的参画	オンラインを活用し、厚別区で開催される研修会や情報交換の場へ参加する	通所部門
	③「インターワーカー」による渉外活動の集約化 【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	施設部門 短期部門 通所部門
	④在宅サービスにおける利用開始後の相談支援の強化	利用開始後に必要な利用者、家族へのアプローチを検討し実施する	相談支援課

【 サポーター・もみじ台 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 施設内リスクの軽減	①虐待及び不適切ケア防止に向けた継続的な活動の推進	セルフチェック実施による検証と、不適切ケア防止に向けた研修を行う	施設部門 訪問部門
	②苦情解決システムの職員周知と強化	昨年度に続き、苦情解決システムの周知を行い、苦情・意見・要望の受理する力を高める	全部門
	③接遇向上に向けた継続的活動の実施	接遇委員会の内容を再検討し、継続的な活動方法を確立する	全部門
2. ICT 機器等の	①記録業務及び通信等の効率化の促進	iPodtouch の使用頻度を数値化し、業務効率を評価する	施設部門
	②入居者生活の行動アセスメントの実施と評価	カメラ等機器使用による行動アセスメントの実施した効果について評価する	施設部門
	③介護・スタンディングリフト等の活用と評価	スタンディングリフトの活用状況を評価し、効果的活用につなげる	施設部門
3. 専門的ケアの実践	①認知症ケアの理念と基礎知識の理解及び促進	リーダーを対象に、認知症ケアの理念と基礎知識の向上を図る	施設部門
	②基本的な介護技術の評価とOJTの実施	介護技術の差を是正するため、定点観察から介護技術を評価する	施設部門 訪問部門
	③アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）及び看取りケアの協議と周知	入居者の望む生活支援に向け、アドバンス・ケア・プランニングを実践する	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
防災対策の確立	①災害時マニュアルの整備と周知	災害を想定したマニュアル作成を行い周知する	全部門
	②火災及び地震等避難訓練の強化	地震と火災を想定した避難訓練を行い、非常災害に備える	全部門
	③近隣の学校・施設との防災時連携の構築	近隣施設・学校との防災対策を共有し、防災時の連携の必要性を検討する	全部門
2. ボランティア活動の充実	①新規ボランティア獲得に向けた継続的な活動	ボランティア活動の充実に向け、学生ボランティア獲得を検討する	施設部門
	②生活支援ボランティアの検討	昨年度検討した生活支援ボランティアの活動内容に沿った募集を行う	施設部門
	③外出行事におけるボランティア協力の検討	安全な外出行事に向け、ボランティアの役割と留意事項を明確にする	施設部門
3. 地域支援・貢献活動の体系化	①)生活支援に焦点化した地域の公益的な取り組みの実施【見直し】	生活支援に焦点化した取り組みに向け、内容の充実を図る	全部門
	②老人クラブ・まちセン等地域関係機関との連携強化	災害時協力体制を軸とした打ち合わせを開催し、連携体制を整備する	全部門
	③地域交流スペースの積極的な活用の検討	過去の利用状況から、今後の利用拡大に向け検討する	全部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 新しい食事提供体制の確立	①完全調理済み食品提供の体系化と検証	新たに配置した栄養士との業務分担を見直し、発注等の効率化を図る	施設部門
	②嚥下調整食の検証と提供方法の体系化	安全、美味しい食事提供に向け、嚥下調整食の提供内容及び提供方法について評価する	施設部門
2. 新介護人員配置の確立	①日常生活サポーター業務の見直し	日常生活サポーターの効率的運用に向け、洗濯業務と清掃業務を分離し、実践評価する	施設部門
	②夜勤5名体制の導入による業務体制の見直し	昨年度開始した夜勤5名体制の評価を行い、課題改善を図る	施設部門
	③入居者支援に係る新たな雇用形態の検討	障がい者雇用の実践を評価し、新たな雇用の幅を広げる	施設部門
3. 食事の安全な楽しみの実現	①ケータリング・実演等の特色ある行事食の提供	食の楽しみを目的に行事食の頻度を増やし、季節に応じた食事を提供する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		事業区分
1. 介護職員の定着強化	①就労及び休憩環境の整備と改善	働きやすい職場づくりに向け、職員を主体に休憩環境を検討する	全部門
	②プリセプター方式等による職員育成方法の検討と実施	継続的に新入職職員に対しプリセプター方式を実施し、評価する	施設部門
	③計画的な有給休暇及びリフレッシュ休暇取得に向けた体制の構築	リフレッシュ休暇、有休休暇の取得予定の申告と、管理点検を継続する	全部門
	④心理カウンセラー（外部機関）の活用の検討	心理カウンセラー等の外部機関活用検討を行うため、情報を収集する	全部門
	⑤退職者ヒアリングの検討と実施	退職理由の原因分析に向け、アンケート用紙を作成し実施する	全部門
2. 利用者の拡大	①事業所PR方法（チラシ・広報誌・見学会等）の検討と実施	昨年度検討した施設見学会を開催し、周知活動を強化する	全部門
	②インスタグラム等のSNSの積極的な活用と評価	効果的活用に向け、インスタグラムの運用方法を明確にし、定期的に情報を発信する	全部門
	③外部機関（病院・老健・地域包括）への定期的なアプローチ	昨年度から行っている広報活動を継続的にいき、知名度向上を図る	全部門
3. その他	①全職員が協力して働ける環境づくり（5S活動の推進）	職員を主体とした5S活動の推進に向けた検討と実践を評価する	全部門

【清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		事業区分
1.適切なケアマネジメント	①自立支援に資する介護予防ケアマネジメントスキルの向上	内部研修等により自立支援に資するケアマネジメントの強化の取組を継続する	介護予防支援
	②ケアマネジメントにおけるタイムマネジメントの推進	訪問における標準時間を参考に各職員が時間の有効活用に具体的に取り組む	介護予防支援
	③職員の業務量における平準化の推進	業務量の偏りの要因を分析し解消のための取組を推進する	介護予防地域支援
2.法令順守	①コンプライアンスの再確認と強化(書類管理体制等)	継続的なコンプライアンスの遂行状況の確認と改善の強化を図る	介護予防支援
	②サービス提供記録(ケアプラン・モニタリング等)の記載方法の強化	各職員が自らの記録の課題を認識し改善に取り組む	介護予防支援
	③介護保険制度・総合事業改正ポイントの適正運用	改正内容の適正運用を検討し遂行する	介護予防支援
3.職員育成	①職員定着の為にOJT機能体制の強化	現状の職場環境課題を洗い出し、改善のために必要な取組を検討及び実践する	介護予防地域支援
	②効率的な業務推進の為に業務内容の点検と見直し	職員の対応力の向上とともに効率的な業務遂行について検討及び実践する	介護予防
	③就労時間適正化の為に、時差出勤制度・有給管理等の推進	時差出勤の活用や有休取得の推進を継続して取り組む	介護予防地域支援

[地域包括支援（地域との連携）]

重点項目	計画内容	事業区分	
1.総合相談支援	①総合相談窓口としての相談受理(インテーク・スクリーニング等)の強化	相談受理に必要なスキル向上を目指した取組みを継続する	地域支援
	②認知症高齢者・家族が暮らしやすい環境の整備(啓発活動・家族会等)	コロナ禍における家族介護者が抱える課題を分析し、早期相談、早期対応につながる環境づくりに取組む	地域支援
	③各種機関(弁護士等職能機関、サービス事業所、地域関係機関等)との連携による権利擁護支援体制の充実	区内における権利擁護支援の課題を分析し対応力向上のための取組を実施する	地域支援
2.包括的・継続的ケアマネジメント	①各種関係機関との連携促進の課題分析と取組み	コロナ禍での高齢者支援における課題解決を含めて各種機関の連携強化に取組む	地域支援
	②介護支援専門員・主任介護支援専門員との研修会・情報共有等を通じたネットワークづくりの推進	包括的継続的ケアマネジメントの環境整備(※)を行い、区内のケアマネジメント力及び連携の向上に取組む	地域支援
	③関係機関との地域ケア会議の効果的な運営の促進	コロナ禍の状況に即し効果的な地域ケア会議の運営を関係機関と検討し実践する	地域支援
3.地域づくり	①地域包括ケアシステム構築のための地域アセスメントの推進	現状における各地区の課題を再アセスメントし、課題解決のための地域支援を考える	地域支援
	②介護予防センター・生活支援コーディネーター等と協同し社会資源(集いの場・生活支援)開発の推進	各地区におけるニーズ把握と必要な資源づくりについて各機関と再考し実践する	地域支援

(※介護保険外の関わりも含め、包括的・継続的ケアマネジメントを可能にする体制を作り、個々の介護支援専門員が多職種・多機関と連携をとりながら高齢者を支える活動ができる環境を整備すること)